

# 常磐公園改修事業基本計画

緑の計画（案）に関する市民アンケートについて

## 常磐公園改修事業基本計画とは

旭川市では、常磐公園周辺を文化芸術ゾーンと位置づけ、周辺一帯の魅力を向上させることで、中心市街地の回遊性を高め、賑わいの再生を図るための整備方針を策定しました。これに基づき、常磐公園に関する整備方針を具現化するための「常磐公園改修事業基本計画」について現在検討しております。

計画の中では、『緑の計画』と『ゾーニング・動線計画』を二つの柱に図書館や公会堂周辺の整備や石狩川堤防付近の整備など「個別計画」について検討しております。今回は柱の一つである『緑の計画』について、市民の皆様にご意見をいただきたいと考えております。

### 常磐公園の姿を構成する基本方針

#### 緑の計画 ～緑を守り育てる～

- ・市民が常磐公園の緑に触れ、憩いと安らぎを感じることができるよう、また、今の風景を将来へつなげていくために、50年、100年先の常磐公園の緑のあり方を考え、都市公園として質の高い緑の確保をめざしていきます。

#### ゾーニング・動線計画

- ・常磐公園を形成するゾーンを設定し、文化・芸術の回廊と位置づけるメイン動線や誰もが利用しやすく景観性に配慮した動線としていきます。

#### 個別計画

- ・文化芸術ゾーン（7条緑道～河川空間）を結び回遊性を向上させる整備とします。
- ・市民の文化・芸術活動を促す多目的広場の整備をしていきます。
- ・公園及び周辺施設とのわかりやすいサイン計画の充実を図っていきます。
- ・施設周辺区域の交通渋滞の緩和と新たな賑わい空間への展開を図っていきます。

#### その他の計画

- ・老朽化した施設の更新をしていきます。（安全で快適な施設サービスの提供）休憩施設（四阿、ベンチなど）、管理施設（照明）、便施設（トイレ）、遊戯広場の遊具など

## 常磐公園の特徴

- 面積15.9haの総合公園
- 市内で最も古い歴史ある公園
- 市民の憩いの場
- 中心市街地の貴重なオープンスペース
- 日本の都市公園100選に選ばれた公園
- 周辺に多数の文化施設がある



## 公園樹木のあり方

資料2 - 2

不特定多数の人々が利用する「都市公園」は、人が入り込まない自然界とは異なり、適切に管理されていることが重要です。倒木や枝折れなどの危険を未然に防ぎ、利用者の安全が確保されていること。また、緑に親しみ憩いを感じられるよう、樹木が健全であることも大切です。

### 公園の樹木の基準となる視点

安全

健全

自然形

『自然形』とは、樹木が適切な生育空間の中で順調に育ったときの樹形です。自然形ではない樹木は、枝が枯れるなど、衰退や老朽が早くなるため、順調に生長できる環境が必要です。

適正間隔で自然形に育った樹木



間隔が近く片枝、幹枯れ、斜めになった樹木



強風により折れた危険な樹木



## 常磐公園の樹木の現状

現在、常磐公園と常磐築堤には85種2651本の樹木があり、そのうち胸高直径10cm以上の樹木が約1800本あります。

公園内の樹木には開園前から自然に生えていたものもありますが、その多くは人の手で植えられてきたものです。植えられた当時は、早くに緑の量を増やすため、比較的、**生長の早い樹種**が好んで植えられました。しかし、**生長後の姿**を想定しながら十分な間隔をおいて植えられなかったため、現在では、生長した樹木が込み入った状況になり、中には十分な日光が行き届かない“被圧”されている樹木も多くあることがわかりました。また、そうした樹木の寿命は100年程度と比較的短く、老朽化も進んでおります。

日当たりが悪い樹木は十分な光合成が行えず、体力が弱り、日光を求め樹形が崩れ、枯れ枝が生じたり、病気などの致命的な生理障害を起こすこともあります。この様な、**生理的バランスの壊れた樹木**や**維持管理が困難な高さまで枯枝を生じてしまった樹木**などの処置が、今後の課題となっております。そのため、「自然形」の樹木を育てるための、適切な生育環境づくりと計画的な更新が必要となっております。

# 緑の計画（案）概要

## 目的

公園の重要な要素である樹木について、そのあり方と方向性を示し、緑の**計画的な更新**や**適切な維持管理**を行っていくための計画を作成します。

## テーマ 「緑を守り育てる」

- 以下の4つの観点から常磐公園の将来を考えていきます。
  - 安全性の観点から
  - 利便性、快適性の観点から
  - 景観の観点から
  - 生態系の観点から
- 以下の8つの方針に従い、将来に都市公園としての**質の高い緑**が確保されていくように緑の更新、維持管理を進めていきます。
  - 北海道や旭川周辺の**郷土種**や現況の樹種を活かし、旭川として**誇れる風景を創出**します。（景観・生態系）
  - 四季を通じて**楽しめるよう、開花・紅葉時期等を考慮した**花木や紅葉木**、さらには冬季にも配慮した**常緑針葉樹**を植栽します。（景観・生態系）
  - 利用者の安全・安心のため、老朽・衰退の早い樹種ではなく、緑の骨格をつくる**寿命の長い樹種**を植栽します。（安全性・生態系）
  - 密植を避け**、日照や通風を良くすることで、植物が健全に生長できる空間を確保します。（安全性・利便性、快適性）
  - 防犯の観点から、**死角や暗がり**ができないような明るい雰囲気となる配植を行います。（安全性・景観）
  - 現況の樹種構成を活かしながら、**樹種に合わせた適正な樹木の間隔**で配植します。（安全・利便性、快適性）
  - 花粉、綿毛、日照障害等、**近隣への迷惑要素**がある樹種や配植は避けます。（利便性、快適性）
  - 枯れ枝の処理などが困難な高木**となる樹種は、配置箇所を十分検討し樹林のアクセントとして植栽します。（安全性、景観）

公園開設時から今日まで、100年余りの長い時間の中で、公園内の樹木も日々成長し姿を変えてきました。**次の100年を見据え**、老朽化や病害などあるいは周辺樹木に及ぼす影響などを総合的に判断し、問題を抱える樹木については伐採し、新しい樹木を計画的に植えることで、**次の時代へ向けて緑の更新を図っていく**ことが必要です。

## 今後の維持管理について

これまでの公園樹木の維持管理は、財政状況に合わせて、**設定された頻度**の除草や剪定を行うほか、苦情等に対する**対症療法的な最小限の維持管理**が中心となっていました。しかし、今後は、公園の現状や課題を的確に把握し将来あるべき姿を予測・検討しながら、**問題の発生を未然に防ぐ計画的な維持管理**が求められています。そのため、**市民協働**での維持管理を進め、行政と市民が一体となり、**管理運営の質的向上**を図っていきます。

公園の外周部  
住宅への日当たりや害虫の影響を考慮  
例：境界から30m程度には高木種の植栽を避け、害虫のつきづらい樹種を選定

園路沿い  
歩行者の安全性の確保と快適な利用  
例：目線の高さで楽しめる観賞価値に優れた樹種  
落葉の少ない樹種  
死角を作らない配慮

主要な緑地域域  
高木・中低木のバランスに配慮した質の高い緑の創出  
例：寿命が長く緑の骨格を造る樹種  
彩にあふれ観賞価値の優れた樹種  
適度な日当たりと健康的な芝生の確保

遊具広場  
子供たちの安全に配慮した植栽  
例：死角や暗がりを作らない  
トゲのある樹種を避ける  
花や実をつける樹種を選ぶ

多目的広場周辺  
例：現況の大きな樹木を活かした  
木陰のある広々とした空間

堤防付近  
例：かつての桜並木の復元や  
河川に近接した空間を活かした  
郷土樹種見本林など

ワイヤーにより補強されている樹木

のびのびと育つ樹形の良い樹木

公園正門の樹木

色鮮やかな花々と千鳥ヶ池

公園の入口部分  
公園のシンボルとなる樹木の植栽  
例：旭川周辺の郷土種で寿命が長く高木となる樹種



園路沿いに木陰をつくる樹木



台風で折れて堤防をふさぐ枯れ枝

